

題目：忌避施設の受容に対して交換の枠組みが与える影響——仮想シナリオ実験を用いた
検討——

氏名：余湖伶子

指導教員：大沼 進 准教授

本研究は、リスクを伴う NIMBY 施設の受容に補償の形態が及ぼす影響を検討した。NIMBY 施設を立地する際には当該地域へ経済的補償が用いられることが多いが、これに対してしばしば反発が起きることもある。NIMBY 施設を引き受ける k との補償の質を比較した先行研究 (Zaal, 2014) では一人の命が助かるという trade-off を補償として提示した場合の方が経済的価値での補償に比べ、需要の程度が高まるという結果が得られている。しかし、先行研究では、強い保護価値(Protected Values)が NIMBY 施設受容における大きな阻害要因になっているとしている (Baron et al., 2000)。保護価値や taboo trade-off の本質を考えると、受容の評価自体が高まらないと思われる。なぜなら、保護価値は trade-off から守られるべき、つまり交換されるべきではない価値とされているからである。以上を踏まえて、本研究では、リスクを伴う NIMBY 施設建設時の補償の種類 (well-being か経済的か) の違いが、施設の受容に対してどのような影響を与えるか検討した。仮想シナリオ実験により行った。シナリオは、「回答者は都市部から遠く離れた過疎地に住んでおり、そこには大変危険な施設の建設計画がある。200 年に 1 度その施設で大事故が起き、その大事故で町は壊滅的な被害を受ける」を 3 条件共通事項とした。その上でシナリオを条件ごとに操作し、統制条件では補償なし、well-being 条件では医療福祉設備や文化・教育環境の充実を、経済条件では国からの交付金の支給と雇用の増加を、補償とした。その結果、リスク・ベネフィット評価、嫌悪感、社会的便益評価などについては、well-being 条件で他の条件よりも高い評価となった。他方、経済条件では町の発展や経済的豊かさについては他の女意見よりも評価が高かったものの、この町に住み続けたいかという評価で統制条件よりも低かった。受容及び拒否や、保護価値は条件間に差が見られなかった。重回帰分析の結果、リスク・ベネフィット評価や社会的便益評価の受容への重要な規定因となった一方、保護価値は強い規定因となった。以上の結果をまとめると、well-being の提示により受容の規定要因の一部の評価を高めることができるが、保護価値を変えることができず、経済的な面だけでなく生活の質の向上も含めて well-being の向上であっても、リスクとの trade-off という枠組みでは、NIMBY 問題の合意には困難があることを示した。